



武州八王子檀林所滝山大善寺境内之風景略図
嘉永4年（1851）ころ

大善寺（大横町）浄土宗

関東十八壇林のひとつ。もと滝山城下にあり、のちに元八王子に、それから大横町に移った。現在は
大谷町にある。

このお寺のお十夜（十夜法要）は、
近県まで名高いものであった。

極楽寺と大善寺とがあった地は、
江戸時代には滝山と呼ばれていた。
た。

◇散歩のみどころ

JR八高線の北八王子駅西口を降り、少し歩いて都道に出る。出たところが青い目の人形が保存されている第八小学校。校庭の中央には百年桜も保存。少し南へ歩くと伝説の首なし地藏。方向を転じて西へ。秘仏の宇賀神と大谷の弁天様が安置されている龍谷寺と日月神社へ至る。さらに西へ。田園と林の中を通り、北大谷古墳へ。古墳を下って行くと、お十夜で有名だった大善寺に着く。この寺は、北条氏照の滝山城、八王子城、徳川期の大横町、大和田町、現在の太谷町へと度々移転している。機織りの白滝様、呑(曇)龍上人は有名である。境内には、八王子代官や小説家等の墓も多い。寺の隣りが、大谷弁財天、都立小宮公園、ひよどり山・森林ウォークコースへと続く。公園西側の南端まで歩くと、水原秋桜子の句碑が建つ名綱神社に着く。さらに大泉寺へ。ここで解散予定。

①市立第八小学校

石川町二〇六五
八王子市立第八小学校は、旧小宮村で最初に出来た開校百周年を越えた歴史ある小学校である。

石川町の西蓮寺が発祥地で、学制発布により明治六年(一八七三)に三和学校として開設され、明治四十一年(一九〇八)大和田、西中野と統合して現在地に小宮尋常小学校として開校した歴史のある学校であり、百年桜と青い眼の人形二体が大事に保存されている。

明治 六年 三和学校開設

九年 為則(いそく)小学校

二十一年 と改称 神奈川県所管
小宮村と改称

二十五年 為則尋常小学校と改称

四十年 小学校法令改正

四十一年 小宮尋常高等小学校
と改称、現在地で開校

大正 十年 高等科を加え小宮第一
尋常小学校と改称

昭和 十年

十六年

二十二年

町制で南多摩郡小宮町となり町立校となる
小宮町が八王子市に合併第八国民学校と改称
第八小学校と改称



市立第八小学校 (手前の木は百年桜)

●青い眼の人形

親米のムードが辛うじて残っている昭和二年（一九二七）「世界の平和は子どもから」をスローガンに日米友好を願うアメリカの宣教師たちから日本の小学校や幼稚園に、約一万三千体の人形が贈られた。

その人形は「青い眼の人形」と呼ばれ当時は、とても珍しがられた。しかし第二次大戦中、敵国の人形として日本各地で焼かれ捨てられたが、再びアメリカと堅い絆で結ばれている今日、二百十数体の人形が各地で大切に保存されていることが確認されている。

また、このことを知った当時の宣教師の孫たち（ひ孫説もある）が感動し昭和六十二年（一九八七）から三年かけて新たに二百十体が日本の小学校に送られてきたという。

また、日本からアメリカへ御礼として送った日本人形も二十五体程が

博物館や美術館に保存されているという。

初めの人形がメアリーちゃん、あとの人形がベッキーちゃん。時代の悲喜を見つめながら、八十年経った今でも青く澄んだ瞳が美しい。日本人形の瞳も穏やかだ。この瞳が戦火で曇らぬよう永久平和を願うものである。



昭和 53 年に発見された古い衣装を着たメアリーちゃん



青い目の人形ベッキーちゃんと現在のメアリーちゃん

●「追憶」

「青い眼の人形」は、「十五夜お月さん」と同様に、雑誌「金の船」に発表された野口雨情の作品で、作曲も「十五夜・・・」と同じ本居長世である。

「青い眼の人形」が誌上に出たのは、大正十年（一九二一）十二月号だから「十五夜・・・」より一年以上ものち、ということになる。

大正十年十二月には、ワシントン会議で、日、英、米、仏の四国間の条約が結ばれ、日本では、親米ムードが盛り上がっていた。会議の結果には、何かと不満もあったが、日本人は、アメリカ生れの人形をやさしく迎えようとする心を、まだ失ってはいなかった。「子どもの昭和史より」



● 「青い眼の人形」の歌

作詞・野口雨情
作曲・本居長世

青い眼をした お人形は
アメリカ生まれの セルロイド
日本の港へ ついたとき
一杯涙を うかべてた
わたしは言葉が わからない
迷子になったら なんとして
やさしい日本の 嬢ちゃんよ
仲よく遊んで やつとくれ
仲よく遊んで やつとくれ
仲よく遊んで やつとくれ



青い目の人形の歌
挿絵

● 「青い眼の人形」

歌詞について

野口雨情(原文のまま)

「青い眼の人形を書いたのは大正の末であって、その頃は国際愛の聲が教育者間にもさければ、總てが国境なしの愛の教育でなければならぬと言われたのであった。顧みれば新興の童謡もこの當時が、一番盛んであったのである。」

家庭にも、學校にも、国際愛を歌ったものが歓迎されまた要求もされたのである。

国際愛は結構なことであるが、その結構なことを歌ったよい童謡がなかったから、いろいろと考えた末、その頃日本の子供さん達にもよろこばれてゐたセルロイド製のキューピーさんを見て、キューピーから思いついたのは、この青い眼の人形である。

青い眼とか赤いとか異国の人形を歌った童謡がなかったので、それを日本の子供さんと取り合せて書いたのがこの童謡である。その内容は今ここで言うまでもなく、感傷的なも

のではない。全く途方にくれてゐる、異国の人形をやさしい日本の嬢ちゃん方によって同情された国際愛の童謡で尊い日本精神のあらはれと思えば良い。」

「日本童謡全集」

昭和十二年日本蓄音機商会



精巧な日本人形



アメリカへ渡った
日本人形

●アメリカに渡った

日本人形

ニュージャージー州のニューアー
ク博物館に常時展示保存されている
ミス大阪市の人形である。小物類な
ど所持品が多数。弟人形とともに良
好な保存状態とか。

関連の保管品として、草履、ぼつ
くり、乗船券、茶道具、傘、鼓、三
味線、クッキー、お茶セット、長持
ち、鏡、裁縫箱、あんどん、箆笥な
ど、手の込んだ、細やかさが窺える。

二代目平田郷陽作のもので、オハ
イオ州コロンバスのオハイオ歴史協
会保存。人形の保存状態は良好。所
持品も多数保管とか。他の保管品と
して、草履二足、ぼつくり一足、扇
子二、琴、手紙六十二通、お化粧セ
ット(中山太陽堂謹製)、お手玉六個、
茶道具、鼓三、裁縫箱、箆笥一、長
持ち計十一(大阪府等マーク)

重要な文化財となる精巧な人形で
あった。

「社団法人国際文化協会」

②首なし地蔵

石川町

八王子市立第一中学校の西側。都
道の傍らの角地に、首の取れた小さ
な地蔵尊がある。よだれ掛けがなけ
れば、ただの石の塊にしか見えない。
土地の人たちは、これを「首なし地
蔵」と呼んでいる。この地蔵尊の首
は、時を経て取れたものではなく、
最初からなかったと伝えられている。
「八王子ふるさとのおかし話」には
次のような伝説も載っている。

昔、相模の旅僧が荒れたこの土地
を見て、為政者の無能を批判し、そ
れを聞いた役人が僧の首をはねてし
まったのである。哀れに思った土地
の人々は地蔵を作り僧の供養をした
ところがこの地蔵、何としても首が
ころげ落ちてしまうので、やむを得
ず首のないまま祀ったということだ
がある。

また、地蔵の周辺地域には、これ
と違う伝説も語り継がれている。

この土地で馬方をしていた者が
江戸の馬方宿に泊まった晩のこと、
宿の近くで火事があり、とび出して
みると、あんまさんが小さな包みを
抱えて途方に暮れていた。それを見
た馬方は包みを奪って逃げてしまっ
た。包みの中味は金であったという。
その後、この馬方は不幸が続いたた
め、あんまさんの供養に地蔵を作っ
たということである。地蔵の首がな
いのは、相模の石工が運んでくる途
中で割れたのだという。

「首なし地蔵」は、首から上の病気
や、首が回らないとき(忙しいとき
や金の工面がつかないとき) 功德
があると伝えられている。



首なし地蔵

●大谷町の昔

大谷村はもと中野村の内で、百姓十右衛門が所蔵していたと天正十九年（一五九一）四月の水帳にされるされている。

「中野村の北の丘につゞきたる村なり 江戸日本橋より十一里 すべてこの邊は土人谷間に住居する地なれば この村名ありと云 東は石川村に続き 谷地川を境とす 北は宇津木村にて この境も谷地川の流れなり 南は大和田村の陸田につゞきて往還を界とせり 東西二十町餘 南北二十五町程 民家は四十二軒 天正十九年の検地帳には 小島又十郎、都築清大夫、中村助五郎等が交名を注せり この後延寶四年（一六七六）近山友閑、内藤六右衛門等再び検地せり 今御料所は小野田三郎右衛門が代官所にして その餘は荻原頼母、窪田忠兵衛、松平河内守、前田八郎左衛門等知行せり」

③両輪山龍谷寺

大谷町六七〇

宗派 曹洞宗

本尊 釋迦三尊仏

寺宝 薬師如来像 延命地藏像

聖観音像 弁財天・大黒天・

毘沙門天の三天像

開山 藍底盛悦大和尚

開基 滝山城主北条氏照の家臣大谷

十郎左エ門

開創 寛永十二年（一六三五）

山号の両輪山は両輪閣ホールに奉安されている薬師如来の縁といわれている。日輪天王（太陽）と月輪天王（月）を守護神として祀ったもので、因みに隣接した神社は日月神社という。寺号の龍谷寺は近くの弁天池に棲む「龍」を一字名付け、地元の名人大谷の「谷」を生かしたといわれている。

釋迦牟尼佛を本尊として曹洞宗

の教義を広め三百六十有余年を
徑て現在に至っている。



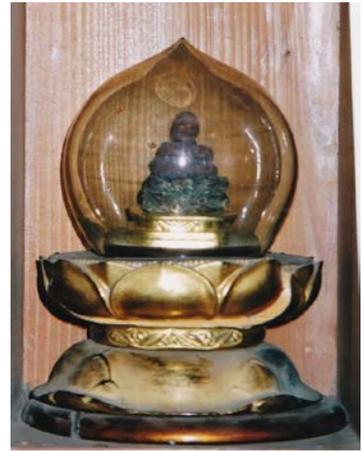
胎内物



龍谷寺



文殊菩薩・釈迦如来坐像・普賢菩薩坐像



龍谷寺秘仏
宇賀神



弁財天



右：日光菩薩 中央：薬師如来
左：月光菩薩



庚申塔



梵鐘
(市指定有形文化財)



龍神(寺宝)



日月神社

④ 大谷町の 日月神社 にちげつ

日月神社は大谷の守護神として龍谷寺と共に約三百六十年前に建立された。特に弁財天は芸能又は水商売の神として女性の参拝が多い。

⑤ 北大谷古墳

大谷町七二五

大谷町のこんもり茂った小高い所に、大谷の古墳がある。大きな石で廊下や部屋が作られていた。これは、大和朝時代の影響が濃い。

八王子インターチェンジの南、富士見台霊園の東側に築造されている。径三十九m、高さ3mの円墳で、これまでに三回発掘調査が行われている。石室は、凝灰岩（ぎょうかいがん）の切石を積み重ね、長さ約10m、高さ二・二三mと墳丘に比べて大きな構造をもつが、残念ながら大きく崩壊している。また、盗掘されているため、石室内からは一点の副葬品も発見されていない。築造時期は七世紀前半頃と推定され、数少ない八王子の代表的な古墳である。現在、石室周辺は埋められている。

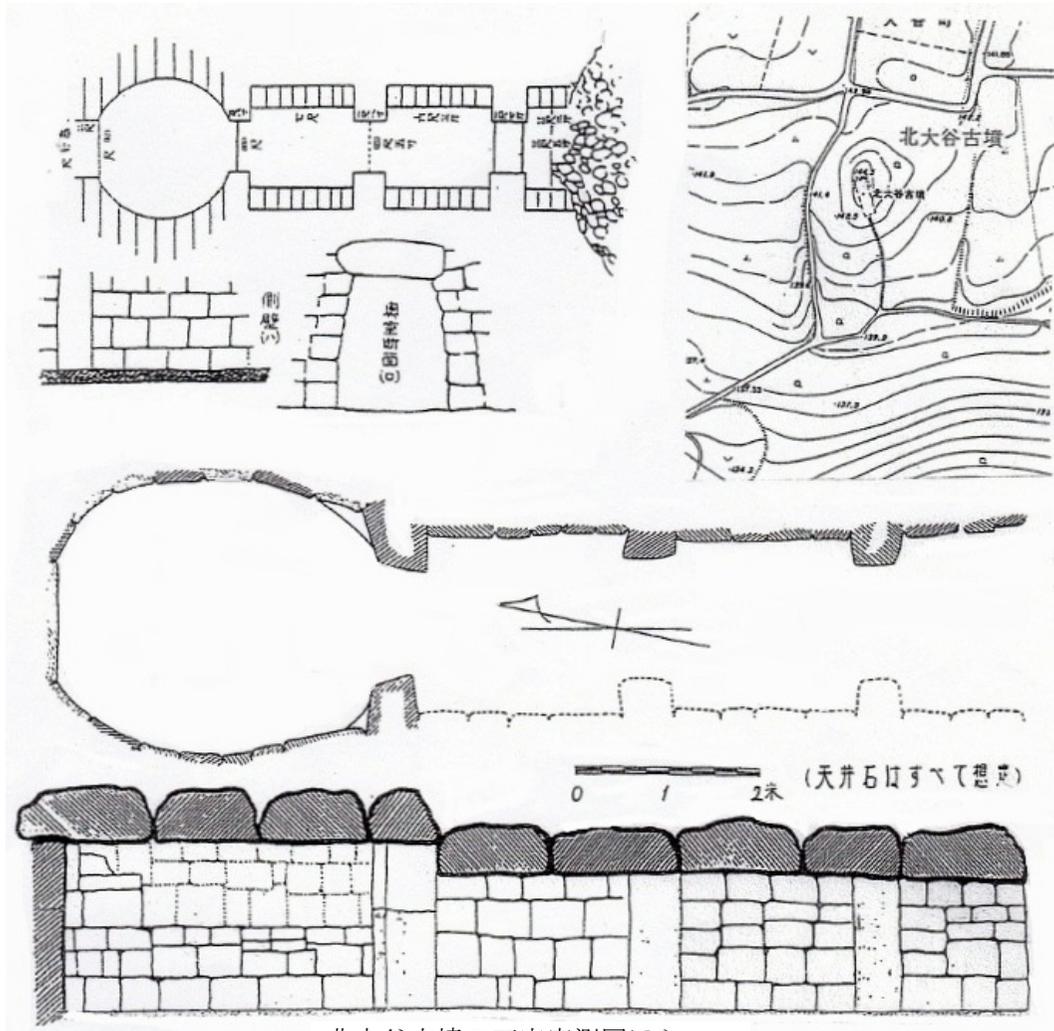
昭和七年（一九三二）九月二十一日調査をほぼ終了している。



調査前の北大谷古墳



現在の北大谷古墳



北大谷古墳の石室実測図ほか



石壁造りの古墳（昭和7年頃）



古墳の内部

⑥ 観池山往生院大善寺

大谷町六七〇

宗派 単立法人（浄土系）

本尊 阿弥陀如来

開山 讚誉牛秀上人

開基 滝山城主北条氏照

開創 創建は明らかでないが、

一説には永禄年間（一五五八

〜七〇）

滝山城主陸奥守北条氏照が菩提寺として滝山城下に創建したと伝えられている。氏照の八王子城移転とともに八王子城下へ移転し、かわらじ、天正十八年（一五九〇）八王子城落城により大横町に移転した。

江戸時代には二万坪の寺域を誇る大寺院で、関東十八檀林の一浄土宗学問所として栄えた。この学寮からは、江戸時代中期の民政家、田中休愚（寛文二年（一六六二）から享保十四年（一七二九））が出ている。当時の第三世住職然誉吞竜（どんりゅう）は特に有名で、「子育て吞龍

さま」として明治時代まで毎月十日が子どもの健康を祈願する縁日として賑わっていたという。

また、大善寺の年中仏事最大の行事である「十夜法要」は、「八王子のお十夜」として知られ、昭和三十六年（一九六一）に現在地に移転するまで、三百年余の伝統を有していた。毎年十月十三〜十五日は、近隣近所から参拝と見物客で賑わいを見せた。なお、境内には関東十八代官の一人武本権右衛門の墓、及び「血文弥陀」の伝説をもつ津戸為守の供養塔がある。



大善寺



本尊の阿弥陀如来



吞龍（曇龍）坐像



厨子の吞龍



機守神社



大横町境内の山門にあった頃の仁王像
(50年ぶりにお目見え 2012年)

● 機守神社と機神さま

機守神社は、桐生の白滝神社の分身である。

機守様は、大善寺境内の機守神社にあった白滝観音のことである。

八王子の機守神社の起こりは、白滝姫伝説に関連している。昔、八王子に与平という信仰心の厚い老人がいた。ある夜、夢の中で絹織物の技術を授けられた。与平は喜んではるばる上州(群馬)山田郡仁田村(現在桐生市川内町)に行き、白滝神社の姫の姿を模写して持ち帰り大善寺境内に小祠を建てて祀った。

その後、八王子織物は桐生の影響を受けて盛んとなり、嘉永四年三月には、桐生織物の福富家の子孫や糸関係者の手で八王子全町の祭典を行い、神社もこの年造営された。江戸時代には機神大明神と呼ばれていたが、明治維新の神仏分離令で神仏混合が禁止され白滝観音と改められた。明治八年、禁止令がとけるや当時の

織物景気の好況に再び機守神社と称し鳥居も立て直された。



白滝姫



機守様 (秘仏)



●大善寺の銅造梵鐘

市内で現存する最古の梵鐘。横川村の鋳物師集団、加藤鋳物師の一連の作品としても現存最古である。

代官武本権左衛門、町奉行近山与左衛門、町年寄田中五郎左衛門、新野与五右衛門などが大旦那となり、今当安寧を願って寛永三年（一六二六）に鋳造された。

加藤甚右衛門長重の作である。



梵鐘
(市指定有形文化財)



梵鐘に彫られている文字

●白滝姫伝説

『群馬県山田郡誌』によると、白滝姫は往古天平宝字年間、朝廷に仕えていた官女の名である。この白滝を秘かに恋い慕う山田某という男がおり、歌をよんで贈った。このことが帝の耳に届いた。山田の姫に寄せざる切なき心を知り、賤しきものにても有心の歌の出来ばえと白滝姫を妻に下した。山田は白滝姫を伴って故郷桐生に帰った。この白滝姫が里人に養蚕、糸繰り、機織りを伝承して桐生の機織りのもとになった。のちに白滝姫を機神として崇え奉り祭礼を七月七日とした。



白滝姫

●お十夜の賑わい

当時は、多摩地域ばかりではなく、山梨県や神奈川県方面の人々にとつて大きな暮らしの節目となっていた。このお十夜の時に大善寺に詣でて念仏を唱和すると、亡くなった人の霊に出会うことができるという伝承もあった。また、サーカスや見世物小屋がかかるほど賑わっていたが、時代の変転の中で、信仰と実益を失った機神さまは昭和三十六年（一九六一）寺地の移転に伴い訪れる人もなくなつた。



境内（明治・大正時代）



戦後まもないお十夜



賑わう境内(明治・大正時代)

⑦ 大谷弁天

都立小宮公園の湧水が流れて弁天池に注いでいる。

大谷町

弁天池は、天明年間（一七八二〜八十八）の飢饉のとき、八王子千人同心頭の萩原氏が、水田を開くため大谷の谷戸を利用して掘ったものである。

領民の苦難を救う手立てを考えながら見回りをしていた彼の前に、目を見張るばかりの美女が現れ、導かれるままについて行くと、茂みの陰に池があり、傍らに小さな弁天堂があった。この池の水は、近隣の村々を潤したので、導きを喜んだ萩原氏は、そこに立派な弁天堂を再興した。弁天様は、商売繁盛や、福運吉祥、厄よけの祈願でたいそう信心された。お参りには、春の巳の日がよく、縁日は大いに賑わったという。特に、「女ご衆参り」は一層の賑わいであったとか。ただ、残念なことに堂は

焼失してしまった。現在、地域住民の浄財により新しく再建されている。



大谷弁天鳥居



大谷弁天と池

⑨ ひよどり山と

旧日光街道

小宮公園の一番北側に、ひよどり山という地名がある。鳥の名前で鶴と明記されており、中学校、配水池、公園などの名前で点在している。

今は鳥の名前に変わっているが、戦国時代には、兵を集めたり、捕虜にした場所であったとも伝えられ、兵取りと言われていた。

幕末から明治にかけて、川口困民党指導者塩野倉之助が困窮する村人をひよどり山へ先導したことも分かる。このように、以前の歴史的地名を変更した場所は、市内でも沢山ある。米軍機の列車奇襲で犠牲者が出た場所も、猪の鼻から湯の花へ。八王子宿の入口が、竹の鼻から竹の花へ。兵取り山が鶴山へなどである。また、小宮公園の北側にある道は、八王子から日光へと通ずる、旧日光街道である。



旧日光街道



ひよどり山公園

⑩ なずなの森

安土の丘陵（暁町二丁目）のちょうど暁橋の正面あたりは、かつて「なずなの森」と呼ばれていたという。その森には、日本武尊にまつわるこんな伝説がある。

日本武尊が東夷征伐にむかう途中、兵たちが喉の乾きを訴えたとき、この泉を発見し、酒壺で泉の水を汲み、喉を潤したという。酒壺を泉につけたため、以来この泉の水は酒香が漂うようになったという。

なずなの森には名綱神社があり、その下で今もわずかな清水が湧き出ている。母乳の出ない母親がこの水を飲むとご利益があるという伝説も又、根強く残っている。

この水は、戦前戦後まで家庭の飲料水として使われていた。

また、功德については、遠方まで知れ渡り、相模まで天秤を担いで売りに行った者もいたそうである。



齋神社 社



名綱神社（齋^{なすな}神社ともいう）

● 名綱神社と齋の池

なすな

浅川の北岸、中野村の安土のふところには、齋の宮があり、名綱三郎権現が祀られている。源頼義將軍の臣で、奥州出陣で武功を立てたが戦死した。魂魄（こんぱく）は領地だったこの地に帰り、権現様として祀られることになった。

宮の前の齋の池は、赤子の乳不足で悩んでいる母親にはありがたい泉で、飲めば乳がよく出た。名綱三郎権現の奥方が、観音さまを信仰して湧き出させたものだという。清らかな水がこんこんと湧き出していた。

八日市宿の炭屋の女房は、子だくさんで、乳が足らずに困っていた。「炭屋が白い乳をいただくのは、おかしいことじゃが、ぜひともおたのみ申します」といって、池の水をいただいたら、乳がふんだんに出たという。まっ白い、まろやかな乳で、赤子は丈夫に育った。近在の衆は、齋の池を、乳水（ちみず）の池とも呼んでいた。



齋の池

みずはらしゅうおうし

●水原秋桜子句碑

俳人、医学博士。本名、水原豊。

明治二十五年（一八九二）十月九日生く昭和五十六年（一九八一）七月十七日没。八十八歳。別号、喜雨亭。東京市神田区猿樂町（現東京都千代田区神田猿樂町）に生まれた。

東大卒、東大俳句会設立。昭和初年には、「ホトトギス」の花形俳人となった。その後、師高浜虚子の客観写生俳句と対立、離脱独立した。昭和九年（一九五四）「馬酔木（あしび）」を主宰して、独自の俳句活動に入り、やがてホトトギスと対抗する勢力になっていく。

昭和二十年の東京空襲により、神田の病院と自宅を焼失。八王子の暁町の新井宅近くに疎開。以後、九年にわたってこの地に住むことになる。この環境の変化が、秋桜子の俳句に、一段と深みを加えていく。

水原秋桜子の句碑は、高尾山飯綱権現堂裏と名綱神社内にある。

ぎょうそ うぬめれいしん

●業祖采女霊神

采女霊神は、日本理髪業の祖、北小路采女助のことであり、八王子町理髪組合が、明治四十一年秀春三月に建立したものである。

また、昭和三十二年十一月十二日、采女霊神祠の五十周年記念として、水原秋桜子の俳句を刻み、石碑を建てている。

「遠世より

つたへしわざを

まつる秋」

水原秋桜子

昭和三十二年十一月十二日

さらに平成十八年（二〇〇六）新井宅に建てていた句碑を、名綱神社内に移動。説明碑と俳句が、自然石に刻まれている。

「冬菊の

まとふはおのが

ひかりのみ」

水原秋桜子



秋桜子句碑



業祖采女霊神碑と
秋桜子の俳句（右）

⑪ 法台山大泉寺

大和田町七十三一

宗派 曹洞宗

本尊 釋迦牟尼佛（宝冠の釋迦）

年代不詳

寺宝 佛乘慈僊和尚筆（一七九八）

一八七〇）

「出山釋迦像」

開山 甲府市古府中町大泉寺九世

陽山宗廣大和尚

開基 岡藩城主中川内膳名正久盛公

開創 寛永三年（一六二六）

当山はもと港区麻布今井町（現六

本木三丁目）にあり、寛永三年（一

六二六、三代將軍家光公治世）

豊後（現大分県）岡藩城主（竹田

城七万四百四十石）中川内膳名正久

盛公が、甲府市古府中町大泉寺（武

田信玄公の父、信虎公の開基。武田

三代の寺）、九世陽山宗廣大和尚を請

して建立された。

久盛公は、法号を法台院殿心鐵宗

安大居士と号され、よって法台山大

泉寺という。現在二十三世、両大本
山は福井県の永平寺と横浜市の總持
寺。

昭和二十年（一九四五）五月二十
五日第二次大戦の空襲で罹災、同五
十三年（一九七八）八月、八王子市
の現在地に移転。



大泉寺



扁額



道了尊堂

◎主な参考資料

- ・八王子寺院めぐり
八王子市仏教協会青年部
- ・龍谷寺・大善寺・大泉寺資料
- ・八王子郷土資料館資料
- ・とんとんむかし 菊地正著
- ・呪われたシルク・ロード 辺見じゅん著
- ・群馬県山田郡誌
- ・八王子ふるさとのむかし話 清水成夫著
- ・昭文社
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ